

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
90220	西洋音楽史研究	4単位 通年	1・2	講義	向井 大策

※修正課程の科目「音楽様式論」(向井大策担当)をもって、西洋音楽史研究の科目に当てる。

## ■テーマ

作曲家の個人様式と時代様式の関係について考察する。

## ■授業の概要

クロード・ドビュッシー (1862～1918) とモーリス・ラヴェル (1875～1937) のピアノ音楽や管弦楽曲、歌曲、室内楽曲などをとりあげ、この両作曲家の個人様式の共通性と違いを、楽曲分析と美学的な背景に関する考察を通して明らかにする。とりわけ、このふたりの作曲家が、文学・絵画などの音楽以外の分野との「照応 (コレスポンダンス)」を通じ、どのようにして独自の音楽様式を確立していったかを、「ベル・エポック」と呼ばれた、この時代特有の文化的背景を通して考察したい。

## ■到達目標

- ・和声やテクスチュアの面において複雑な面をもつドビュッシーとラヴェルの音楽を分析的な観点から理解する。
- ・ドビュッシーとラヴェルが独自の音楽様式を確立するに至った、文化的・美学的な背景について理解する。
- ・ドビュッシーとラヴェルの個人様式を把握することで、作品研究や演奏解釈の手がかりをつかむ。

## ■授業計画・方法

講義形式の解説と分析を中心にしつつ、参加者の構成を見ながら、参加者による研究発表・演奏等の機会も交え、両作曲家の音楽への理解を実践的に深めていきたい (したがって、以下の授業計画は、参加者の構成によって変更される可能性もある)。

<前期>

- |                            |                           |
|----------------------------|---------------------------|
| 1. 導入                      | 9. ドビュッシーの管弦楽曲の分析 (2)     |
| 2. ドビュッシー、ラヴェルとその時代 概説 (1) | 10. 参加者の研究発表 (3)          |
| 3. ドビュッシー、ラヴェルとその時代 概説 (2) | 11. 参加者の研究発表 (4)          |
| 4. ドビュッシーのピアノ音楽の分析 (1)     | 12. ラヴェルのピアノ音楽の分析 (1)     |
| 5. ドビュッシーのピアノ音楽の分析 (2)     | 13. ラヴェルのピアノ音楽の分析 (2)     |
| 6. 参加者の研究発表 (1)            | 14. 参加者の研究発表 (5)          |
| 7. 参加者の研究発表 (2)            | 15. 参加者の研究発表 (6) / 前期のまとめ |
| 8. ドビュッシーの管弦楽曲の分析 (1)      |                           |

<後期>

- |                             |                              |
|-----------------------------|------------------------------|
| 16. 後期の導入                   | 24. 参加者の研究発表 (9)             |
| 17. ドビュッシーとラヴェルの歌曲の分析 (1)   | 25. ラヴェルの管弦楽曲の分析 (1)         |
| 18. ドビュッシーとラヴェルの歌曲の分析 (2)   | 26. ラヴェルの管弦楽曲の分析 (2)         |
| 19. 参加者の研究発表 (6)            | 27. 参加者の研究発表 (10)            |
| 20. 参加者の研究発表 (7)            | 28. 参加者の研究発表 (11)            |
| 21. ドビュッシーとラヴェルの室内楽曲の分析 (1) | 29. ドビュッシーとラヴェルの音楽様式——差異と共通性 |
| 22. ドビュッシーとラヴェルの室内楽曲の分析 (2) | 30. まとめ                      |
| 23. 参加者の研究発表 (8)            | 定期試験は実施しない。                  |

## ■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・講義や研究発表でとりあげられる作品については、可能な限り、楽譜を準備すること。
- ・それぞれの回でとりあげられる作品については、事前に観賞し、概要を把握しておくこと。
- ・講義でとりあげる内容をより深く理解するために、以下に紹介する参考文献を、授業と平行して読み込んでいくことが望ましい。

## ■成績評価の方法・基準

- 【方法】
- ・平常点 50%
  - ・研究発表 30%
  - ・期末レポート (前期・後期各1回ずつ) 20%

【基準】到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

(芸術文化科学研究科 (博士課程) の学生には、専門家としての独創的かつ学術的な達成を求める)

## ■教科書・参考文献 (資料) 等

□教科書 随時資料を配布する。

□参考文献 松橋麻利『ドビュッシー』(音楽之友社 作曲家・人と作品シリーズ)

ヴラディミール・ジャンケレヴィッチ『ドビュッシー——生と死の音楽』船山隆、松橋麻利訳 (青土社)

アービー・オレンシュタイン『ラヴェル——生涯と作品』井上さつき訳 (音楽之友社)

オリヴィエ・メシアン『メシアンによるラヴェル楽曲分析』野平一郎訳 (全音楽譜出版社)